

## 東京大正博覧会 銀メダル

波田 尚大

今月ご紹介するのは市内柳町の土屋家から寄贈された、東京大正博覧会の銀メダルです。銀メダルは「貳等賞銀牌」と印字された黒塗りの箱に収納されており、直径 6.2cm、厚さが 9cm ほどで片面には「大正三年」の文字と東京大正博覧会のマークと桜の図像が、もう片面には「東京大正博覧会」、「銀牌」の文字と、第一会場正門と様々な工芸品、農産物や水産物の図像が刻印されています。



東京大正博覧会 第一会場正門之景  
台東区立図書館 デジタルアーカイブより



東京大正博覧会 銀メダルの刻印

メダルの図案については東京府が公募し、同第一会場の設計を委ねられた建築家の中村順平が行っています。

『東京大正博覧会事務報告』の「第一章 総叙」によると東京大正博覧会は大正天皇の即位を記念し、産業振興のため東京府が開いた博覧会で、大正 3(1914)年 3 月 20 日から同年の 7 月 31 日まで、東京・上野公園を中心に開催されました。来場者数の合計は約 750 万人だったと報告されています。

『東京大正博覧会出品審査概況』の受賞人名簿を確認すると、飯能町の土屋半次郎が銘仙を出品し、貳等賞銀牌を受賞したことが記されています。つまり、本資料は同氏の「銘仙」に与えられたものであることがわかります。

市域において一等賞金牌は「乙羽紬」を出展した小槻藤次郎、貳等賞銀牌は土屋家を含めて 9 の個人と団体、三等賞銅牌は 11 名が受賞、これに加えて褒状が 18 名に与えられており、合計で 39 の個人・団体が表彰されました。

その大部分が土屋家のように生糸や絹織物を出展しての受賞であり、中には「武川西川材木商同業組合」が杉材で二等賞銀牌を、精明村の都築森太郎が

ヒノキの苗木で褒状を与えられています。

大正 4(1915)年の 4 月 18 日に武蔵野鉄道の開通祝賀式が飯能停車場前で挙行されますが、本博覧会はその直前に開催されており、当時の飯能の産業の様子を知ることのできる貴重な資料だと言えます。

### 【参考文献・WEB サイト】

東京大正博覧会 編『東京大正博覧会出品審査概況』東京大正博覧会記念帖刊行会 大正 3(1914)年  
東京府 編『東京大正博覧会事務報告』上巻 大正 5(1916)年

(上記はともに国立国会図書館デジタルコレクションより)

台東区立図書館デジタルアーカイブ <https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/1310615100>